

700年以上受け継がれる

「花祭」

おくみかわ やまやま いろあざ そ ころ はな
奥三河の山々が色鮮やかに染まる頃、「花祭」のシーズンがやって来ます。この花祭は毎年11月から1月にかけて、設楽町、東栄町、豊根村の10以上の地域で行われ、豊作や無病息災を願う神事として、代々それぞれの地域に受け継がれてきました。その起源は、今から700年以上前の鎌倉時代にまでさかのぼると言われており、国の「重要無形民俗文化財」にも指定されている歴史的価値の高い奥三河の伝統行事です。



地域によって異なる花祭

はなまつり い きょだい おに めん
花祭と言えば、巨大な鬼の面と、「テーホヘ、テホヘ」という独特なかけ声とともに一昼夜踊り続ける祭りというイメージが一般的にはありますが、長い年月のなかで、行事の進行、かけ声、拍子や舞い方など、それぞれの地域で独自の進化をたげ、同じものは一つもないと言われています。

花祭をもっと知りたい！

かくちようそん こうしき しせつ はなまつり
各町村の公式サイトや施設で、花祭のことを詳しく知ることができるよ！



とう えいちやう
東栄町



とよ ね ちむ
豊根村



しやう ら ちやう
設楽町



とう えいちやう はなまつりかいかん
東栄町にある花祭会館では、さまざまな資料や映像を見学できます。

観光資源としても注目

花祭は、その土地その土地に根づいた地域の文化として、地元の人たちの手で大切に守られてきました。いわば、知る人ぞ知る郷土の祭りでしたが、道路が整備され、奥三河への交通の便が向上したことと、インスタグラムなどのSNSによる情報発信の効果で、テレビや雑誌、インターネットなどのメディアに取り上げられる機会が多くなり、地域外でも花祭の存在が知られるようになってきました。遠方から見物に訪れる観光客や毎年のように祭りに参加する常連客も増え、奥三河の地域活性と知名度アップに一役買っています。

この日はかりは、
老いも若きも
皆一緒になって
踊ります！



地域の絆

奥三河の風土と歴史が育んだ花祭は、親から子へ、子からまたその子へと、何代にも渡って受け継がれてきました。祭りの時期になれば、子どもから大人まで、皆で協力して準備を行い、当日は一緒に舞い踊り交流を深めます。祭りを楽しむことはもちろんですが、人と人、世代をつなぐ絆として、地域にとって大切な役割を花祭は担っています。過疎化や高齢化が何かと話題になってしましますが、花祭が大好きで、ふるさにとに残る、帰ってくる若者がいます。花祭に魅了されて移住してくる人がいます。この奥三河の貴重な文化を、次の世代、未来へつないでいきましょう。

地域を越えたつながり 豊橋市・御幸神社の花祭

戦後、豊橋市には、土地の開拓やダム建設の影響で、豊根村から多くの人が移住してきました。彼らはふるさとを想い、この地でも花祭を開催。現在は御幸神社にて毎年1月4日に行われています。

